

この冬、インフルエンザが流行している。

インフルエンザウイルスは鳥に常在している。昨秋、北海道の野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、その後、島根県、鹿児島県の渡り鳥からも検出された。

野鳥から農場で飼育されている鶏の感染に波及し、鶏の死亡事例が相次いで報告されている。

2009年の新型インフルエンザの流行は、強毒性の高病原性(感染性のある微生物が感染したときに病気を起こす)ではなかったが、航空機などによる国際間の人の動きが活発となっている現代性を示すこととなった。

た。

メキシコで起こったこの年のインフルエンザは、アメリカ、日本など北半球、そして冬場であった南半球へと拡大していった。

感染症の流行は地域的な流行



感染症対策の体制整備を急げ

である「エンデミック」、国内

的な流行の「エビデミック」、世界的な大流行である「パンデミック」に分けられる。

パンデミックとしては、1918年から翌年にかけて全世界で死亡者が4千万人以上となった。

た「スペインかぜ」の記憶が強く残されている。

最近では、2002年のSARS(重症急性呼吸器症候群)の流行はパンデミックの一手手前までいった。SARSは人間がこれまでさらされたことのないコロナウイルスが変異した動物由来のウイルスであり、世界を震撼させた。

SARS流行が契機となり、感染症問題は途上国の問題であるとしていたのが、世界全体で取り組むべき課題であるとの認識となり、2005年にWHOの国際保健規則(IHR)も

改正された。このような中で発生したのが2009年のインフルエンザパンデミックであった。

ところで、わが国の感染症対策は大丈夫なのであろうか。法律制度上は、感染症法(感染症の予防及び感染症の患者に対する

医療に関する法律)が成立し、事前対応型の対策に転換されている。

しかし、事後対策にかかわる人的、組織的な資源は十分に整備されていない。

鳥インフルエンザ対策を例にみると相変わらず縦割り行政

だ。野鳥は環境省、農場の動物は農林水産省、人の感染症は厚生労働省、学校の流行は文部科学省、さらに実務業務は地方自治体となっているが、感染症対策を担える人材が行政のみならず医療機関にも少なすぎるのだ。

パンデミックが起こった場合、救急医療や医療機関は混乱し、交通機関はまひし、食料の供給不足などが生じ、国民の社会生活、経済的な損失も甚大なものとなる。一般生活者に近い地域レベルの感染症の危機管理体制の人的、組織的な基盤整備が急務である。

(高島毛敏雄・関西大学社会安全学部教授)